

日本産業衛生学会九州地方会ニュース

産衛九州

発行所 日本産業衛生学会九州地方会
〒807-8555
福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘1-1
産業医科大学産業生態科学研究所
産業精神保健学研究室
TEL (093) 691-7475
FAX (093) 692-5419
発行責任者：地方会長 江口 尚

(題字：倉恒匡徳筆)

巻頭言

新理事就任にあたっての抱負

日本産業衛生学会 九州地方会 理事 垣内紀亮



日本産業衛生学会九州地方会の会員の皆様、このたび理事に選任いただき、身の引き締まる思いで就任のご挨拶を申し上げます。令和7年4月に九州地方会の新体制が発足して以来、理事としての活動が本格化して参りました。前任理事のご尽力のもと、地域に根ざした産業保健活動やセミナー企画、

地方会学会運営などが着実に進められており、そのバトンを受け継ぐ責務の重大さを痛感しております。

また、記念すべき第100回日本産業衛生学会総会が令和9年(2027年)5月26日~29日に北九州市小倉駅近くの北九州国際会議場、西日本総合展示場にて開催されることが決まっております。既に企画運営がスタートし、来年99回大会が大阪で開催されますが、今後、九州各県で盛り上げていくことが求められると考えます。

私は、大分県選出の理事として、まず、現在の大分県の産業衛生学会員数の現状について記載したいと思います。2025年7月の大分県の会員数は51人と、2024年度より会員数が減少しています。私は、産業医部会大分県幹事も兼任させていただいておりますが、振り返りますと大分県内の産業医の先生方と、個人的に繋がっている先生もいらっしゃいますが、県・地域として集まったり、情報・意見交換をする機会がほとんどありません。なので、まず、産業医の先生方はもちろん、業種を超えて現状を共有して、地方会への期待や要望、あり方についてご意見を伺いその意見を元に、地方会に求めることは何かを考えていきたいと思っております。

また、特に、地方なので、産業医の選任義務がない従業員50人未満の事業場に対する産業保健サービスの提供は、地方の産業保健を支える上で不可欠で、そのためには地域の各医師会の協力を仰ぎながら、地域ごとの産業保健活動

の推進が必要と思います。よって、大分県産業保健総合支援センターや地域産業保健支援センターとの連携も重要と思いますし、また、中小事業場に対して、産業保健の知識や支援を届ける仕組みを構築し、産業医や保健師、地域医療機関との連携を深め地域での活動を進める必要がある、すなわち、産業保健の立体的な広がりが重要と思います。具体的には、まだ検討段階ですが、WEBやメールでの意見交換、また、自分の所属する医師会との意見交換からスモールスタートと考えています。そういった中で、同業種や業種を超えて、地域のつながりが生まれ、スモールステップの活動を継続的に続けることで結果的に会員数の増加になるといいと考えています。

代議員についても、大分県は1名しか選任されておらず、他の県に比べてこちらも寂しい状況です。私は、他の県の会員の方と情報格差が発生しているのではないかと危惧しております。特に大分県の会員の皆様には、産業衛生学会・地方会でこういったことが話し合われているか、こういった研修会がいつどこであるかなどの産業衛生学会の各部会がそれぞれ精力的に企画をしていることをもっと知っていただくためにも、積極的に情報を発信して理解活動を行い、その中で研修会等に参加いただくことで、会員の掘り起こしができるのではないかと思います。まだ会員登録していない方がいらっしゃれば、まずは積極的に会員になってもらうためにも地域そして、県単位での地道な活動が必要ではないかと考えます。

私自身、産業保健に関わる立場から、専属産業医として融合を模索してきた経験を活かしながら、産業保健の新たな展開に取り組んで参りたいと考えております。過去に理事として就任された方々も、産業保健と地域資源との連携や、多職種連携の重要性を訴えておられました。私も同様に、九州地域の多様な資源や実践事例を結びつけ、それを、地方会を通じて全国に発信していく意義を強く感じています。

産業保健を取り巻く環境は、社会構造の変化や技術革新、気候変動などにより変化のスピードが増しています。その中で、地方会として果たすべき役割は、地域に根ざした声を拾い上げ、現場で培った知見を共有し、全国に向けて発信していくことにあります。私は新理事として、その橋渡し役を努め、九州から産業保健の未来を切り拓く一助となるよう取り組んで参ります。

会員の皆様一人ひとりのご協力を心よりお願い申し上げますとともに、本地方会が皆様にとって有益な情報源となる

よう、江口地方会長と共に、また、冒頭に記載した100回大会に向けて理事として微力ながら力を尽くしてまいります。

この原稿を起草するにあたって、日本産業衛生学会九州地方会のホームページを改めて拝見しましたが有用な情報がたくさんあると感じました。会員の皆様におかれましては、是非、江口会長挨拶もご一読いただければと思います。
<https://sanei-kyushu.com/greetihg.html>

今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

新入会した方の声

新入会のご挨拶

上田大佑

(産業医科大学 大学院医学研究科・産業衛生学専攻
博士前期課程 放射線衛生管理学領域
(産業医科大学病院 歯科・口腔外科))



はじめまして。このたび日本産業衛生学会に入会させていただきました、上田大佑（うへだ だいすけ）と申します。紙面をお借りして、会員の皆様にご挨拶申し上げます。

私は、長崎大学歯学部を卒業後、産業医科大学病院の歯科臨床研修医として勤務を開始し、以後、同院の歯科口腔外科にて診療に携わっております。現在は外来・入院患者に対する抜歯処置、口腔がんや顎顔面外傷の手術、がん治療に関連した口腔合併症への対応に日々取り組んでいます。

本年度より、産業医科大学大学院産業衛生学専攻に進学し、岡崎龍史先生が主宰される放射線衛生管理学研究室に所属しております。現在は、歯科診療現場における放射線被ばくの実態調査および、放射線治療の晩期障害である放射線性顎骨壊死（ORNJ）に関する研究に着手しております。

歯科診療に用いられるエックス線は1回あたりの線量は小さく、医療従事者の放射線防護の意識が低いと考えております。歯科診療現場の放射線防護の実態を把握することでより現場の状況に即した放射線防護の在り方を提案することができるのではないかと考えています。

また、ORNJ患者では、摂食・会話機能の障害や顔貌の変化により長期にわたりQOLが損なわれることも少なくありません。放射線防護という産業衛生学的視点からORNJへアプローチすることで、より実効性のある発症予防策を見出せるのではないかと考えております。さらに、こうした症状はがん治療後の就労継続や職場復帰に大きな

影響を与えるため、医学的支援に加えて職場での支援体制も重要だと考えております。治療と仕事の両立という観点からも産業衛生学的知見を自身の診療領域で応用できる場面は非常に多いと感じています。

こうした背景から産業衛生領域の専門的な視点を深め、自身の歯科医療の実践に活かしたいと考え、日本産業衛生学会に入会させていただきました。産業衛生学の知識の習得に努めるとともに、学会活動にも積極的に参加し、学びを深めていければと考えております。また、多様な専門分野の先生方のご研究やご活動に触れることで、歯科と産業衛生の架け橋となるような研究を進めていければと思います。

未熟ではございますが、今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

新入会のご挨拶

川上 慧

(産業医科大学 大学院医学研究科・産業衛生学専攻
博士後期課程 産業健康科学領域)



産業医科大学大学院博士後期課程に在籍しております、理学療法士の川上と申します。この度、日本産業衛生学会に入会いたしました。

私は2013年に理学療法士免許を取得し、急性期・回復期病院にて現在まで勤務しております。2024年より、産業医科大学大学院博士後期課程に社会人大学院生として入学いたしました。高年齢労働者産業保健研究センターにて、財津教授はじめ在籍されている先生方からご指導いただき、研鑽に励んでおります。

理学療法士として臨床現場で12年間勤務する中で、疾病や障害を抱える方々の生活・職業復帰の支援に深く関わってきました。近年、労働者不足及び高齢化が進行しており、急性期病院に入院される方々が治療だけでなく早期の仕事復帰を望まれ、高年齢の層も多くなっていると感じており

ます。そこで、自宅生活への復帰だけでなく、早期の職場復帰への援助や介入を経験していくことで、病気になる前に働く人々の健康を包括的に支援する産業衛生分野への強い関心を抱くようになりました。今後ますます働く方々が健康で、長く安全に働き続けられるようなサポート体制の構築は不可欠であると考えております。理学療法士は、運動機能の専門家として、病気の予防、健康増進、労働能力の維持・向上に寄与できる可能性があり、日本理学療法士協会においても、日本産業理学療法研究会という形で理学療法士が関わっている活動や研究、普及・啓発をしております。このような背景から、私は産業衛生分野への学び、研究者としての研鑽を積みたいという思いで、産業医科大学大学院に進学いたしました。

私が在籍している高年齢労働者産業保健研究センターは、高年齢労働者の増加に伴う労働災害の予防と産業構造の変化による新たな課題に対応することを目的に、2021年4月に設置されました。研究内容は、転倒災害予防のための労働者の身体機能測定や遊び・スポーツを組み込んだ運動介入・行動経済学的研究、大規模データ等を用いた労働災害疫学研究や社会疫学研究など、多岐にわたるテーマがあります。高年齢労働者の健康確保に関係する学内外の各部署と横断的に研究調整を行い、ハーバード大学やボストン大学といった海外研究機関との共同研究も実施されています。

まだまだ未熟者ではございますが、当センターでの大学院生・理学療法士・研究者として学びを得ていることに日々感謝をしながら、産業衛生分野へ理学療法士として寄与できるよう、勤労者の健康に貢献する研究や活動に尽力していきたいと思っております。今後も社会への還元を念頭に精進してまいりますので、ご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。



部 会 報 告

産 業 医 部 会

池 上 和 範

(桜十字福岡病院・株式会社 HealthCraft)



日本産業衛生学会九州産業医部会の新部長に就任いたしました、池上和範（桜十字福岡病院・株式会社 HealthCraft）と申します。今年度よりこの重責を担うこととなり、皆様のご支援のもと、九州の産業保健の発展に尽力してまいります。

九州産業医部会副部長に黒崎靖嘉先生（三菱電機株式会社神戸製作所 [長崎]）、成田彩先生（九州郵政健康管理センター熊本分室）にご担当いただき、幹事全12名と顧問（九州地方会長：江口尚先生）で構成されております。九州・沖縄の7県から1名以上の役員を選出し、盤石な体制を整えております。九州地方会のさらなる盛り上がりを目指し、地域の特性を活かした新しい活動にも力を注いでいく所存です。

さて、2025年7月1日に第一回幹事会を開催し、2025年度の九州産業医部会セミナーの開催について議論いたしました。今年度は、2026年2月7日（土）（予定）に、博多駅周辺で開催する予定です。セミナー講師には、労働安全衛生総合研究所 化学物質情報管理研究センター ばく露評価研究部長の齊藤 宏之先生をお招きし、「熱中症」をテーマに、今年度の夏の振り返り、来年度に向けた取り組み、最新情報の共有を予定しております。また、例年通り、他部会・他学会・研究会と共催し、他のテーマに関する講演会も開催する予定です。会員の皆様にできるだけ多くの情報提供ができるよう、引き続き計画を進めてまいります。研修会の詳細につきましては、後日ホームページ等でもご案内いたしますので、多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

別件ですが、熱中症に関して、本部産業医部会が発行する産業医部会報にシリーズ記事を準備する予定です。私がシリーズ記事の編集責任者として、まず2025年8月に発刊される第84号にて、熱中症の予防や病態に関する疑問・質問を広く募集いたします。お寄せいただいた質問には、専

<https://forms.gle/UY3zzdBgWBpj31Mc7>



専門家・研究者に依頼し、医学的・労働衛生学的な見地から回答記事を作成してもらう予定です（部会員以外の皆様も、産業医部会ホームページから閲覧可能です）。質問投稿用のフォームも、前記の通り、ご提示させていただきますので、ぜひコメントをお寄せいただきたく存じます。

最後に、皆様のご健勝と事業所のご発展を心よりお祈り申し上げますとともに、本年度も変わらぬご指導、ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

産業保健看護部会

落田 みゆき
(西南学院大学)

2025年1月25日(土)にリファレンス大博多ビル貸会議室にて開催しました産業保健看護専門家制度継続教育研修会について報告いたします。最初に、産業保健看護部会の中谷副会長から、本部会は①産業保健看護職の質の向上、②部会員の拡大とネットワークの強化、③社会的認知・評価の向上という3つのビジョンを掲げて活動を行っており、今回は、中途半端な理解による誤解が危惧されている「認知行動療法」について、(一社)認知行動療法研修開発センター理事長の大野 裕 先生をお招きし「本質的な認知行動療法を学ぶ」というテーマで研修を企画したことが紹介されました。



参加者は、福岡県だけでなく岡山、広島、山口、長崎、佐賀県の方も含まれ45名でした。参加者の経験年数は10年未満、10～20年未満、20年以上の3区分の割合がほぼ同じで、幅広い層で認知行動療法とその第一人者である大野先生のご講演への関心の高さが伺えました。

研修は、最初に大野先生から「認知行動療法は宝箱ではない」という注意喚起があり、認知行動療法は、対象者との良好な関係性構築のもとでソクラテス的（対話を通して教えていく）問答によって、対象者に関する正しい情報を収集し、目標・課題を共有し、戦略を立てて、対象者が適応的な思考で行動できるようサポートしていくこと。その結果、対象者の対処能力が向上し、ネガティブな感情の緩和と自己肯定感の向上によって本来の力を取り戻すことが

可能となることだをご教示いただきました。講義のあと、面接場面のビデオ視聴や事例紹介によって産業場面での活用方法が具体的に紹介され、ペアワークでセッション面接を体験し、最後にデジタルツールの紹介がありました。

事後アンケート（n=35）では、研修は「大変満足」89%、「満足」11%、理解が「深まった」86%、「やや深まった」14%で、「実際の面談動画がとてもしっかりやすかった」、「エピソードや事例が多くあり具体的にイメージできる内容だった」と研修内容・構成が効果的だったこと、業務で「活用できる」77%、「やや活用できる」23%、「メンタル支援のみならず、保健師活動全般に活かせると思った」、また、「認知行動療法は個人の認知を変えることと短絡的に捉えていたので、誤りに気づけて良かった」、「認知行動療法の基本は関係づくり、工夫を聴きねぎらう、良いところを見落とさない、困っているエピソードを聴いて対処の方法を共に考えること」と思った」など、本質に触れた感想もみられ、大変有意義な研修であったことが伺えました。

また、2025年産業保健看護研究会を8月30日(土)に同会場で開催し、産業医科大学医学部両立支援科学准教授永田昌子先生に「発達障害と合理的配慮」というテーマでご講演いただきました。2026年1月24日(土)には、第2回産業保健看護部会学術集会を福岡天神の地で開催することになりました。会場は大名カンファレンス（福岡大名ガーデンシティ内 ザ・リッツカールトン福岡そば）で懇親会も予定いたします。皆様のたくさんのご参加をお待ちしております。

今後も皆様からの積極的なご意見・ご要望を受けながら、産業保健看護職のスキル向上に寄与できる研修を企画して参ります。ご協力のほどどうぞよろしくお願いいたします。

産業衛生技術部会

宮内 博幸
(産業医科大学)



2025年5月14日～17日にて仙台市で開催された第98回日本産業衛生学会において、産業衛生技術部会では「世界と日本の産業保健の違いを考える～衛生工学の視点で～」と題して国際シンポジウムが中原浩彦氏（NAOSH Consulting）、栄徳勝光氏（高知大学）を座長として開催

された。演者は Connell Samantha 氏（IOHA）、Park DooYong 氏（Professor of Hansung University）、橋本晴男氏（橋本安全衛生コンサルタント合同会社）、梶本繁之氏（株式会社産業保健コンサルティング）であった。

日本における化学物質の自律的な管理は、国際的な流れ

と一致しており、今後は国際的な専門家との直接的・相互的なコミュニケーションが有効である。アジアは世界的な製造拠点として台頭し、急速な工業化と経済成長を牽引してきたものの、労働安全衛生には大きな課題をもたらしている。筋骨格系障害やメンタルヘルスへの懸念などの新たな問題はより複雑で深刻である。一方、同時に IT と AI の革命的な進歩が労働衛生の状況を再構築されている。このような状況下において、日本が重要な役割を担っている。

現在の日本の職場における化学物質の管理は、2024年4月から大きく変化しており、過去には、主として法令等のみにより化学物質が指定され、使用者の義務が詳細に規定されてきた。今回、雇用主による自律管理への大きな転換が示された。具体的には約2900物質をリスク評価の対象としたこと、政府による濃度基準値の設立である。今後、事業主は自らの責任で化学物質のリスク評価と管理を行うことが求められるという提言がされた。

また、「化学防護保護具に関する講演会」が自由集会として開催された。岩澤聡子氏（防衛医科大学校）のもと、宮内博幸（業医科大学）、中村亜衣氏（ガステック）、川村幸嗣氏・本間弘明氏（光明理化学）を演者として開催された。テーマは皮膚等障害防止における化学物質管理についてであり、宮内博幸氏からは皮膚等障害防止の必要性について問題提議がされた。川村幸嗣氏・本間弘明氏からは検知管法を利用した化学防護手袋の簡易透過性試験の開発について、中村亜衣氏からは化学防護手袋に装着可能なシート状拡散型サンプラーの開発についての講演があった。化学物質管理における新たな技術開発の内容であり、参加者と活発な質疑応答が行われた。

行われた産業衛生技術部会の活動は、本国における化学物質の自律的管理が国際的に注目される中、新たなリスク管理の実践の推進について考えさせられる、とても有益な内容であった。

産業歯科保健部会

谷口奈央

(福岡歯科大学 口腔保健学講座)

2025年2月22日(土)、福岡県歯科医師会館にて、2024年度定例研修会を開催いたしました。テーマは「健康経営と歯科保健を繋ぐ」とし、健康経営を切り口にした2題の講演を企画しました。まず、産業歯科保健部会長の安田恵理子先生より、「産業保健における歯科の役割～健康経営の流れも踏まえて～」と題して、産業保健における歯科の位置づけについて総論的にご講演いただきました。続いて、福岡歯科大学名誉教授の埴岡 隆先生には、昨年の九州地方会学会での発表を具現化した健康経営戦略マップと歯科保健に関するご講演をいただきました。福岡県歯科医師会・地域保健部の先生方にもご参加いただき、活発な意見交換



がなされました（集合写真参照）。このご縁をきっかけに、同地域保健部主催「産業歯科健診推進講習会」において、今年度は安田先生が講師としてご登壇されることとなりました。今後も福岡県歯科医師会との連携が一層深まることが期待されます。

また、5月に仙台で開催された日本産業衛生学会の産業歯科保健部会フォーラムでは、「事業場における労働者の健康保持増進（THP）に口腔保健を取り入れるには？」というテーマのもとに、九州地方会からは日本予防医学協会の山本良子先生が「企業外労働衛生機関の産業歯科保健のあり方」についてご講演されました。企業外という立場から、対象者の状況に応じた柔軟な保健事業の提供方法についてお話があり、特に新型コロナウイルス感染症の流行を機に進化した、郵送による歯周病検査や Web を活用した保健指導などの新たな支援方法が紹介されました。これらは、7月1日厚生省・基安労発「一般健康診断問診票を活用した歯科受診勧奨（協力）」文書の職場における口腔保健指導の推進を考えるうえで、今後のヒントとなる内容でした。その他、開業歯科医、大学関係者、企業関係者など、多様な立場の演者による発表が行われ、さまざまな視点から産業歯科保健について考える有意義な機会となりました。

同時期に開催された日本口腔衛生学会では、最終日のシンポジウムとして「生涯28実現のための事業所での歯科健診をどのように進めればよいか～労働安全衛生法の法定歯科健診の活用とこれからの展開～」が開催され、産業歯科保健部会の推進が大きなテーマとして取り上げられました。また、禁煙推進委員会企画のシンポジウム「歯科禁煙支援の推進を加速するロジックモデルの構築」では、健康経営戦略マップをもとに、歯科からの禁煙支援のあり方について議論を深めました。さらに、行動変容に関するシンポジウムでは、私が動機づけ面接の紹介を担当し、日本産業衛生学会での同様のシンポジウムとも呼応する内容となりました。行動変容は歯科と他領域に共通する重要な課題であり、今後も横断的な連携が求められることを改めて実感しました。

会員の声

産業保健とリハビリテーション専門職

谷 直道

(産業医科大学 産業生態科学研究所 人間工学研究室)



九州地方会の会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

ここ数年、日本産業衛生学会の会員として理学療法士や作業療法士などのリハビリテーション専門職（リハ職）が徐々に増えて参りました。学会全体では100人にも満たない職種ですが、九州地方会

には17名（2025年7月時点）の会員が在籍しています。

さて、実はリハビリテーション医療の発祥の地が九州であることを皆様にご存知でしょうか。1949年、炭坑や鉄鋼業で栄えた北九州において、労働災害によって四肢切断や脊髄損傷などを被災した労働者の治療・社会復帰を支援するために、九州労災病院で日本初のリハビリテーション医療が開始され、理学療法士や作業療法士が配置されました。そのため、リハ業界内では「リハビリテーションの陽は西から昇る」ともいわれています。

諸外国では、産業保健と人間工学（Occupational health and Ergonomics）の領域で多くのリハ職が活動しており、事業場内での運動機能検査やリ・コンディショニング、人間工学的リスク評価や作業管理に関連したサービスを提供しています。国内に目を向けると、一部のリハ職が障害者雇用促進法を背景とした「職業リハビリテーション」の範疇で障がい者の就労支援に携わってきました。一方で、労働安全衛生法を根拠法とした労働災害の防止や疾病発生・重症化の予防などの一次・二次予防に重きをおく産業保健の文脈におけるリハ職の活動は、まだ緒に就いたばかりです。しかしながら近年では、理学療法士が大企業の健康管理センターに雇用され、産業保健専門職と連携して従業員の衛生管理に携わる事例や、エイジフレンドリー補助金などを活用した中小規模事業場における健康づくり（運動機能検査や運動レクリエーションなど）に携わる事例、治療と仕事の両立支援などに関与する事例などが散見されるようになりました。

現在、理学療法士、作業療法士の有資格者は、それぞれ21万人、11万人を超え、全国各地の医療機関・社会福祉施設などに所属しています。産業構造や働き方の変化などから労災の被災状況や業務上疾病の発生状況・構造も大きく変遷した現代において、事業場規模を問わず全ての働く人々へ産業保健を届けるための潜在的なリソースとして、医学的素地があるリハ職と連携を図ることは一考の価値があると思われます。

九州地方会は、産業医や保健師・看護師はもとより、衛生管理者、作業環境測定士、歯科医師、歯科衛生士、薬剤師、人間工学者など多様な人材・専門職が産業医学の発展に関わってきた土地柄でもあります。産業保健というフィールドで多職種が連携した新しいリハビリテーションの形を、九州地方会の皆様のお知恵を拝借しながら共創できれば幸いです。

第32回韓日中産業保健学術会議に参加して

森元 伸哉、中村佑生子
友永 泰介、森本 泰夫

(産業医科大学 産業生態科学研究所 呼吸病態学研究室)

第32回韓日中産業保健学術会議は2025年5月29日～31日の3日間にかけて、韓国のソウルにある KOREANA HOTEL で開催され、日本・韓国・中国の3か国から150名（うち日本より35名）が参加されました。当会議では、各国の産業保健に関わる様々なテーマが発表され、活発な質疑応答が交わされました。

初日はワークショップとポスターセッションを聴講しました。ワークショップでは3題、各国からの発表がありました。ポスターセッションでは発表者が1人3分間で内容の要旨を発表し、別会場のポスター前で質疑応答を行う形式で実施され、初日は18演題が発表されました。特に、日本でじん肺のリスクがトンネル建設や石炭・金属・石油鉱業で高かった点、日本の労働衛生の3管理の考え方に基づき化学物質のリスクを評価する点、日本の造船業でアスベスト関連疾患を発症する可能性がある点、韓国での航空機の客室清掃で発生する粉じんを暴露するリスクがある点が興味深く、実際の調査結果を通して様々な業種でじん肺などの職業性肺疾患のリスクがあることを学ぶことができました。

2日目の午前中のキーノートセッションでは、様々な日常生活での行動が転倒のリスクになること、香港の電子廃棄物作業員が化学物質を曝露するリスクを尿中化学物質により評価することや、職業性肺疾患の歴史について学びました。2日目にもポスターセッションがあり、19演題が発表され、私は「工業用ナノ材料とアクリル酸ポリマーの肺



第32回韓日中産業保健学術会議

障害性の比較」と題して発表を行いました。指導医にご指導を頂きながら、ポスターおよびスライドの内容および構成の提示の準備を行い、初めての英語での発表を経験することができました。午後のオーラルセッションでは、イソシアネート関連業務における健康状態に関する調査、ステンレス製食器製造工場の研磨工程中の結晶質シリカのばく露評価、マイクロプラスチックばく露による酸化ストレスの評価について聴講しました。全体的にこれまでの私自身の産業保健活動ではなじみのないテーマが多く、新しい知見を得ることができました。

最終日のシンポジウムでは屋内環境で感染症リスクを減らすためには局所および全体換気や個人保護具が必要である点と PM2.5 の健康リスクをモニタリングするためのバイオマーカーとして尿中代謝物が有用になることを学びました。また、キーノートでは健康が労働生産性と供給に影響を与える点、中国における産業保健活動、韓国で加湿器用の消毒剤のばく露により呼吸器疾患を発症する歴史について学びました。特に外国における実際の産業保健の活動および事例を通して知見を広げました。

今回、私にとって初めての海外での学術会議でしたが、様々な領域の研究者や実務家の発表や議論を通して、各国が労働安全衛生に関わる課題を抱え、どのように解決していくかを学ぶことができる非常に貴重で有意義な経験でした。来年は2026年6月24日～26日にクラウンパレス新阪急高知で開催予定です。皆様是非ご参加ください。

理 事 会 報 告

2025年度 第1回九州地方会理事会

日時：2025年7月26日(土) 16:00～18:00

場所：TKP 博多駅前シティーセンター
(オンライン併用)

議題：

- 1) 令和 6 (2024) 年度第 2 回理事会議事録要旨について
- 2) 令和 6 (2024) 年度事業・決算報告について
- 3) 令和 7 (2025) 年度事業計画・予算案・会員数について
- 4) 第100回大会開催に向けた準備について
- 5) その他

報告事項：

- 1) 日本産業衛生学会本部関連報告
- 2) 令和 7 (2025) 年度地方会学会 (@沖縄) の準備状況
- 3) 令和 8 (2026) 年度地方会学会 (@北九州) の準備状況
- 4) 令和 7 (2025) 年度「研究会等」の開催予告
- 5) その他 (産衛九州 9 月号準備状況など)



研修会・学会の報告と予告**2025年度九州地方会学会のご案内
(第3報)**

中村幸志

(琉球大学大学院医学研究科 公衆衛生学・疫学講座)

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。2025年度の九州地方会学会は、琉球大学大学院医学研究科公衆衛生学・疫学講座が主宰して開催します。既に学会HPを通じて皆様にご案内しているとおり、以下のような内容で開催します。

<https://sites.google.com/view/jsohokinawa2025>

- 日時 2025年11月7日(金) 午後
8日(土) 午前(昼過ぎまで)
- 場所 沖縄産業振興センター 1F大ホールほか
(沖縄県那覇市字小禄1831番地1)
沖縄都市モノレール(ゆいレール)
小禄駅から徒歩にて約15分
- 11月7日(金) 午後：
学会長挨拶、一般演題(口演)、一般演題(ポスター)兼交流ティータイム、教育公演「新たな地方会運営の展望：地域の特性を活かした労働者の心身の健康増進のために地方会のできること(江口尚氏、産業医科大学産業生態科学研究所産業精神保健学研究室・教授)」、自由集会。

- 11月8日(土) 午前(昼過ぎまで)：
学会長講演「職域における生活習慣病対策(中村幸志)」、特別講演「労働者における睡眠の問題とその対処法(高江洲義和氏、琉球大学大学院医学研究科精神病態医学講座・教授)」、代議員会(普通会员等もオブザーバー参加可)＋閉会式。

モノレールの最寄り駅(小禄駅)から少し離れたところに会場があります点にはご不便をおかけします。参加費を割引く事前参加登録は9月30日(火)まで可能ですが、飛行機ならびにホテルのお早めの手配と合わせてご検討ください。

今年度から地方会長に就任された江口尚先生には新たな地方会運営の展望について大いに語っていただき、九州地方会のさらなる発展のきっかけとなることを願っています。また、睡眠医学の専門家である高江洲義和先生から労働者の睡眠問題について貴重なお話が聞ける機会でもあります。教育講演、学会長講演、特別講演に対して、各種研修単位(産業保健看護専門家制度継続研修、日本医師会産業医制度生涯研修、社会医学系専門医制度選択受講項目、公益財団法人日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師制度)を申請中です。研修単位については最新情報を学会HPでご確認ください。一般演題については活発な意見交換を期待しています。

各自で沖縄でのご滞在をお楽しみいただきたく懇親会は

行いませんが、7日(金)のプログラム中に交流ティータイム(無料)をご準備いたします。

皆様と沖縄でお会いできることを楽しみにしています。どうぞよろしくお願い申し上げます。

**2026年度九州地方会学会のご案内
(第1報)**

宮内博幸

(産業医科大学 産業保健学部 産業衛生科学科)

日本産業衛生学会九州地方会の会員の皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。このたび、2026年度の地方会学会を下記の通り開催する運びとなりましたので、ご案内申し上げます。今回は産業衛生技術部会が準備を担当いたします。不慣れな点も多く、ご迷惑をおかけする場面もあるかと存じますが、何卒お力添えくださいますようお願い申し上げます。教育講演、特別講演等の内容につきましては、翌2027年5月に北九州で開催予定の日本産業衛生学会第100回大会を見据えながら、現在鋭意準備を進めております。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

日時：2026年10月24日(土)

会場：北九州国際会議場

学会長：宮内博幸

事務局：産業医科大学産業保健学部産業衛生科学科



編 集 後 記

『産衛九州』第58号をご覧いただき、誠にありがとうございます。

今号は、垣内紀亮先生による「新理事就任にあたっての抱負」の巻頭言から始まり、新入会員の川上慧さん・上田大佑さんのご挨拶、産業医部会、産業保健看護部会、産業歯科保健部会、産業衛生技術部会からの充実した活動報告など、盛りだくさんの内容となりました。

さらに、中村幸志先生による2025年度日本産業衛生学会九州地方会学会（11月開催予定）の告知、宮内博幸先生からの2026年度学会（2026年10月24日、北九州市開催）のご案内も掲載しております。会員寄稿としては、谷直道先生による「産業保健とりハビリテーション専門職」、森元伸哉先生による第32回韓日中産業保健学術会議参加報告をご寄稿いただきました。

このたび、2019年から3期6年間にわたり九州地方会長を務められた堀内正久先生が2025年2月をもって退任され、翌3月から私・江口が地方会長を引き継ぐこととなりました。九州地方会長は『産衛九州』の編集委員長も兼務し、理事の先生方が編集委員として誌面づくりに携わっています。第100回大会、そしてその先の“次の100年”を見据え、こうした体制のもと、九州地方会のさらなる発展に尽力してまいります。

『産衛九州』はホームページを通じて一般にも公開されています。そのため、九州地方会ならではの情報発信を心がけ、職種の垣根を越えて、幅広く産業保健に関心を寄せる方々にも親しんでいただけるよう、身近で魅力ある話題をお届けしていきたいと考えております。

今後とも、会員の皆様の温かいご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

九州地方会ニュース「産衛九州」

発行 2025年9月1日

編集責任者：江口 尚（産業医科大学）
編集委員：池上 和範（桜十字福岡病院）
彌富美奈子（株式会社 SUMCO）
大神 明（産業医科大学）
大森 久光（熊本大学）
垣内 紀亮（ダイハツ工業株式会社）
住徳 松子（アサヒビール株式会社）
田邊 綾子（宮崎大学）
中谷 淳子（産業医科大学）
中村 幸志（琉球大学）
堀内 正久（鹿児島大学）
堀江 正知（産業医科大学）
山下美和子（長崎産業保健総合支援センター）

（編集事務局連絡先）

〒807-8555 福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘1番1号
産業医科大学産業生態科学研究所
産業精神保健学内
TEL(093)603-1611 FAX(093)692-5419
E-mail: sanei.kyushu.jimukyoku@gmail.com